

重点 目標	評価項目	評価指標	評定		学校の自己評価と改善策	関係者 評定	学校関係者評価コメント
			令和元年度	令和2年度			
確 かな 学 力	1 4つのチェックポイントを意識した日常授業の改善に努める。	・1単位時間の授業の中での一人ひとりの理解度の評価 ・授業における学習内容の定着や習熟を図る時間の設定 ・指導内容の精選 ・文章を早く正確に読み取る力の育成	児童生徒 3.4 保護者 2.6 教員 3.1	児童生徒 3.2 保護者 2.7 教員 3.0	① 4つのチェックポイント（めあてとまとめを意識、内容の精選、テンポ・間を意識、児童生徒の実態に合わせる、的確な指示・発問）の掲示を行い、意識した指導を行っている。また、習熟の時間の確保も行っている。 ② 学力調査や諸テスト等の分析等を行い、指導に生かしている。1月に小中合同教科部会を実施し、課題の確認や指導の工夫改善の手立て等の話し合いを行い、学力向上に向けての取組を検討した。 ③ 2か月程度の休業日の授業時数確保のために行事の見直しを行った。授業時数は確保できた。 ④ 指導に適宜ICTを活用している。 ⑤ 主題研究で授業改善に努め、全員公開授業を実施した。また、文章を正確に読み取ることの指導の改善に向けた研究も行った。 ⑥ 校時程を見直し、登校を8時、学習やコグトレ、読書の時間として8時5分から10分間の時間を確保している。また、職員会等を水曜日の午後のみ実施し、教員が教室での朝の指導に当たることができるようにした。児童生徒は落ち着いて朝の学習等に取り組んでいる。	3	・乗り入れ授業等の指導の工夫改善を行い、小中で連携して学力をさらに伸ばしてほしい。 ・読解力や要約力を身に付けさせるためにも読書指導に力を入れてほしい。 ・読書や家庭学習については保護者にも啓発し、連携して取り組んでほしい。
	2 学力調査の分析と学習指導の工夫改善を図る。	・学力検査結果の分析を活用した個別指導の充実 ・デジタル教材、ICT活用の推進 ・読書・作文指導の充実 ・校内研究を通じた全職員による指導方法の工夫・改善					
	3 業務の見直しを推進し、指導と評価に集中できる環境を整備する。	・校時程の変更による教材研究、個別指導の時間の確保 ・部活動従事時間、行事の見直し、内容の精選による時間の確保	【指標 3.2】				
明 る く 楽 し い 学 校 生 活	1 あいさつの大切さに気付かせ、すすんであいさつする児童生徒を育てる。	・あいさつは、「いつでも、どこでも、誰にでも、心を込めて、明るいあいさつ」の意識付け	児童生徒 3.4 保護者 3.4 教員 3.4	児童生徒 3.4 保護者 3.4 教員 3.6	① 毎朝の活動として、中学生の生徒会本部役員や部活動生や小学6年生の児童を中心に、挨拶運動や清掃活動を行っている。自分たちで考えて動くことができるよう指導した結果、挨拶への意識が高まった。さらに、目を見て挨拶をすることや地域の方々にも挨拶をするなど、スキルや意識を高めていきたい。 ② 毎月アンケートを実施し、組織的に対応している。 ③ 主題研究で、相互の授業参観など小中連携した道徳指導の充実を図っている。また、QU検査結果をもとに学級ソーシャルスキル学習にも取り組んでいる。今後も、よりよい学級づくりへの取組を行っていく。 ④ 清掃活動を縦割り班で行い、上級生が指示を出すように指導している。無言清掃が徹底され、短時間で集中して清掃活動に取り組んでいる。	4	・挨拶はとても良い。継続して指導を行ってほしい。 ・いじめ等については保護者に状況を配付プリントで報告されたが、今後も継続して指導・支援を行ってほしい。 ・登校時は集団登校をしているのできちんと登校できているが、下校時は道に広がり危ない場面もある。下校の交通安全指導をお願いしたい。
	2 毎月アンケートを実施し、積極的ないじめ・不登校等対応を行う。	・日頃の児童生徒観察（ちょっとした変化も見逃さない） ・生徒指導の三機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的な人間関係を育成する）を生かした指導 ・道徳の実践力に繋がる、道徳科の授業時間の充実 ・ソーシャルスキルトレーニングの実施					
	3 一生懸命掃除に取り組む児童生徒100%をめざす。	・役割と責任を自覚させる工夫 ・班長を中心とした主体的な清掃態度の育成	【指標 3.4】				

重点 目標	評価項目	評価指標	評定		学校の自己評価と改善策	関係者 評定	学校関係者評価コメント
			令和元年度	令和2年度			
健康 教育 の 推 進	1 体育授業における三納っ子ウォーミングアップ運動や体力向上の取組の推進を図る。	・体育授業における指導方法の工夫・改善 ・体力テストを活用した体力向上プランの作成と実践のための取組の充実 ・専門家を招聘しての指導の充実	児童生徒 3.6 保護者 3.1	児童生徒 3.7 保護者 3.3	① 体力向上プランを作成し、三納っ子ウォーミングアップ運動や体力向上の取組として縄跳び運動や走運動を取り入れた。 ② 交通安全教室を小中それぞれで実施した。中学部は4月に自転車点検及び交通法規テストや自転車の実技テストを行った。小学部も10月に講話や実技指導を行った。 ③ 好き嫌いなく何でも食べることができるよう、毎日の給食で指導している。小学生は少し残菜があるが中学生は残菜はほぼ0である。 ④ 栄養教諭の協力を得、全学年に食育の授業を実施した。その後の指導に生かして、好き嫌いなく食べようとする意欲につなげたい。来年度も継続して実施していく。 ⑤ 防災教育や避難訓練は生徒指導部と連携して実施している。 ⑥ 食物アレルギーに関する職員研修や職員の児童生徒の引き渡し訓練を行った。	4	・体力向上への指導を継続して行ってほしい。また、体力テストの個人の結果を保護者にも知らせてほしい。 ・自力登校は体力向上にもつながる。児童生徒や保護者に、特別な場合を除いては自力登校するよう指導や啓発をお願いしたい。
	2 安全指導の充実を図り、自転車事故ゼロをめざす。	・交通安全教室の計画的な実施・指導の徹底 ・交通ルールを守る指導の徹底 ・自転車通学に関するルールの遵守	教員 3.2	教員 3.4			
	3 栄養の大切さを理解させ、食育の充実を図る。	・栄養教諭と連携した食育の推進 ・成長期に必要な栄養バランスの理解 ・給食の時間の指導の工夫・改善	【指標 3.3】				
と も に 子 ど も を 育 て る 学 校 づ く り	1 学校からのお知らせやホームページを活用し、積極的に情報発信をする。	・学校からのお知らせ、ホームページの充実 ・学校参観、懇談の充実 ・鑑賞教室等の保護者や地域への紹介及び参加呼びかけ	児童生徒 3.5 保護者 3.0 教員 3.2	児童生徒 3.6 保護者 3.2 教員 3.3	① プリントやHPを活用し情報発信を行っている。現在、HPのアクセス数は1日130～140である。 ② 性教育や食育、薬物乱用防止教室、地域学習（JA西都、マンゴー生産者、記紀みらい塾、お米づくり・餅つき）等外部指導者と連携を図りながら指導を行った。また、妻高校の出前講座では、中学2年生が福祉体験やビジネスマナーやドローンについての学習も行った。3月にはNTTの情報モラル学習をリモートで行う予定である。来年度もぜひ継続して実施したい。 ③ 朝の登校時等に教員と地域の方が交差点等に立ち、交通安全指導を実施している。また、PTAの代表の方と月に2回校区内の巡回を行っている。 ④ 今年度は感染症対策のため、職場体験学習や地域学習、その他地域の方々に協力を仰ぐ活動を自粛した。ぜひ、来年度は工夫して少しでも実施できるようにしたい。 ⑤ 地域行事への学校の協力も今年度はできなかった。今後は検討したい。	4	・学校の状況を知るためにも、感染症対策を取りながら、主任児童委員や民生委員の学校訪問ができる機会があるとよい。
	2 地域の教育力を発掘し、外部指導者としての協力を仰ぐ。	・地域人材情報の収集 ・全職員での情報共有 ・学校行事での地域人材・素材の活用 ・「さいと学」の充実					
	3 「本校PTA活動」「三納地域づくり協議会」「三納地区民生委員児童委員協議会」との役割分担と連携を進め、ともに三納っ子を育てる。	・地域行事への児童生徒の参加促進 ・見守り隊との連携 ・地域行事の企画における学校側の協力 ・学校関係者評価委員会の充実 ・家庭と学校の役割を分担し、児童生徒をともに育てる環境づくり	【指標 3.3】				